

われもこつ 第17号

2004年7月7日 発行

特集

森
を
あ
か
し
い
に
つ
く
る



人間は、自然の一員ですが、自然界に大きな負担をかけて生きています。このままでは、貴重な軽井沢の自然は、わたしたち人間の身勝手でもなくなってしまう。私たちの代で、自然を使い果たしてしまうことはできません。どうしたら、子どもたちや孫たちも、いえ、ずっといつまでも、大切な自然と仲良くやっていけるのでしょうか？ 私たちに出来るようなことを、少しでも考えてみました。

●野の花がいっぱい咲みだれる庭をつくりたい！

●別荘地のお手入れ法

●蝶が訪れる庭づくり

●山野草を手に入れるには？

去年、植木屋さんに草刈機で草を刈ってもらったら
以前咲いていた花が咲かず、寂しい思いをしました。

今年はどうしようかと悩んでいます。

よく、業者に頼むと、庭全部を完全に刈り込んでしまい、自生の花を傷めてしまい植生が変わってしまうことがあります。わたしたちが気がつかない小さな花や、地味な花でも、自然界には無駄なものはありません。その花を頼りに生きている蝶や昆虫などの生き物

もいます。生活に差しさわりのないお庭の一部分は、たとえ小さくても、自然のままに残す配慮も必要です。ほんの一週間ほどの開花時期も、その花にとっては一年で一番大切な時期なのかもしれません。自然の命は人間だけのものではないのでしょうか？



枝をはらって日当たりをよくすると、いろいろな野の花が咲きます。

ふきのとう、山椒、ウド、ミツバ、ユゴミ、栗などいろいろな山の幸に恵まれた庭。

さかめめに伐採した木や浅間石を利用。

※ポイントは、しっかり刈りこんだ小径と草丈を高めに残して刈ったところと、メリハリをつけること。

私のえがく

「軽井沢の自然」

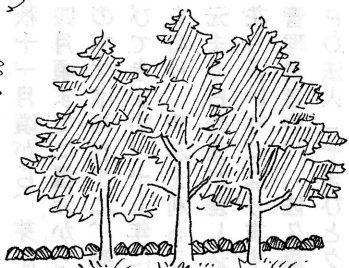
中野千賀

「軽井沢の自然」と聞いたとき、皆さんはどんなことを想像しますか？ 雄々しくそびえる浅間山でしょうか、それとも別荘の中の木々や小川のせせらぎ、小鳥のさえずりでしょうか。生き物の生活を調べるために軽井沢を訪れるようになった私の目に、軽井沢の自然がどんなふうに見えるのか、簡単にご紹介したいと思います。軽井沢の自然の大きな特徴は、「非常に多様だ」ということです。南軽井沢の平地の湿地や草原から浅間山の高山帯までが町内に含まれ、さらにそれらの間には場所ごとに特色のある林や川の流れなどがみられます。ちよつと足を運べば、それぞれの環境にあふれんばかりの生き物たちの命を感じることが出来ます。

風通しのいい庭は家にもやさしいですよ



山野草の“島”



キレイに刈り取ったところから生えてくるキ！コもあります!!

おいしい

うちの庭は、西洋タンポポとヒメジヨオンだらけ。
お隣の庭は、色々な野草が生えるのに、どうしてでしょう？



おそらく、建物を建てるときに、表土の上に、他から土を持ってきていたり（客土）、表土をかき回していたりして、自然の植生を壊してしまっているからだと思います。このような場所が出来ると、一番先に繁殖力の強い外来種の西洋タンポポや、オオブタクサ・ハルザキヤブガラシなどが侵入してしまいます。除草しながら、少しずつ野草を増やしていくより仕方ありません。大変な手間です。できれば、建設時に、表土を保全するように業者に頼んでおくと良かったのですが・・・。

もう一つの特徴は、人々の歴史と非常に関係が深いことです。別荘地を囲む森の歴史は実はそれほど長くはなく、それ以前のはるか昔から戦後まもなくまでの何百年もの間、人々が木や草を刈り取って日々の生活に利用してきたため、軽井沢には草原が広がっていたそうです。

急激に変わりつつける軽井沢の中で、ときおり、草原や湿地で生活する生き物たちがかるうじて生き残っているのを見つけたことがあります。そんなときは、その生き物たちが語る軽井沢の昔話に耳をすませつつ、この土地で人々と自然がどんなふうにかかわってきたのかを想像せずにはいられません。さらに今後、軽井沢がこれらの命の歴史を少しでも絶やさず受け継いでくれることを願ってやみません。

(東京大学農学生命科学部研究科

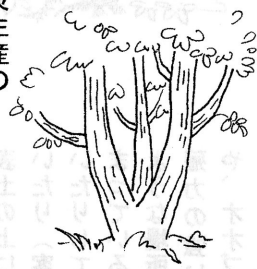
研究員)

久しぶりに自分の土地を見たら、うっそうとしました。しかも、やぶだらけ。

木は切りたくないし、どうしたらいいかしら？

久しぶりに自分の土地を見たら、**ずいぶん木が大きくなって**

生えている木の根元を見てください。もし、根元から何本かに分かれて生えている木が多ければ、その土地はかつて十五年に一度くらいの頻度で木を切り、薪炭生産のために利用されていた二次林です。



秋十一月頃から、芽が動き出す前の四月頃までに根元から切っても、木の本体は枯れずに、春先にはまた伸びてきます。十五年に一度くらい木を切り、やぶを刈ることによって根元まで日の光が差し込む明るくて草花も多い林になります。詳しくは、管理業者や、「佐久森林組合」やNPO法人「そまびとクラブ」などに相談してください。

山野草が好きなのですが、どうやって手に入れたらいいのでしょうか？



初心者向け山野草
《オミナエシ》

カンカン照りの駐車場に
増える多年草

山野草で一番問題になっているのは、その店が扱っている商品が、「山採り」（違法に自然界から採取されたもの）かどうか分からない点です。長野県の希少植物の減少要因の一番目には「採取圧による減少」があげられています。せっかく山野草が好きで買って、それが違法な採取を助長し、自然の破壊しているものであつては困ります。イギリスなどでは、第三者

機関が、採取によるものではないことの認定を行うシステムが創られています。残念ながら日本では、まだ出来ていません。とりあえず確実なのは、お友達で花を育てている人から分けてもらうことです。「われもこうの会」では、このような花の苗や種の交換もしています。お友達を作りながら、一緒に野の花を増やしましょう。

軽井沢の土地は、色々な性質の

土壤があると聞きました。私の庭にはどんな花が合っているのでしょうか？

確かに、軽井沢の土地の性質は多様です。詳しくは、『軽井沢町誌 自然編』の付録についている、「軽井沢町土壤図」を見て調べてください。図書館で見られます。もともと自然界に有った花が「一番合っている」といえます。「われもこの会」の会員などに聞くのが一番確実です。「聞くは一時の恥、聞かぬは末代の恥」です。親身になって考えてくれると思います。ぜひ、軽井沢にもともと有った花を増やしてください。表土をいじっていなければ、カラマツを切り（間引き）、クマザサを刈って、日当たりを良くしておくだけで、二〜三年後には色々な花が咲き始めるはずです。明るい庭には、小鳥も来て、花の種を落として

散歩の途中で見つけたきれいな花！

放っておいたら、誰かが取ってしまいそう…。持ち帰ってもいいかしら？



《クリンソウ》

こぼれダネで
増えていきます。

木もれびの下、
やや湿った
ところに。

くれます。どんな花が増えるのかじっくり観察するのも大切です。思いもかけない希少種があなたの手入れを待って日陰で生きながらえているかもしれません。なにしろ、「本州中部にある花はほとんどある」というほど軽井沢の花の種類は豊かだったのですから。

花の好きな人は、みんな一度は経験したことだと思えます。欲しい気持ちは分かりますが、でももし、あなたがその花を探ってしまったらどうなるでしょうか？ 次に通る人は、その花に会えなくなってしまう。人間以外の生き物で、その花の蜜や花粉を食べ物にしているものも必ずいます。何年後、あなたのお子さんや、お孫さんが通るときにも、同じようにきれいな花が咲いているような町にしたいものです。どうか、そっとしておいてください。あなたのためには、その花の写真を撮ってください。不思議と気が落ち着くものです。

「とるのは写真だけ、

残すのは足跡だけ」

蝶に やさしい 庭づくり

栗岩 竜雄



風物詩として花と蝶と言えは不変的な組み合わせです。美しい蝶たちが色とりどりの花に舞う姿を見ると、心がなごみます。

さて蝶にやさしい庭とはどんな庭でしょう？ それにはまず、花よりも「空間」が重要になります。蝶は栄養補給のためだけに花を探しているわけではありません。花の咲く場所とはととの出会いの場になるわけです。それにはある程度見晴らしが良く、相手を見つけやすい「空間」がないと難しくなります。周囲に日射しをさえぎってしまうような木の枝があるなら手を入れ、背の低い植物

にもきちんと光が届く、「明るい空間」が理想的です。

植える花は在来種に限ります。もし外来種の蜜も好んで吸うようになると、花粉が多方面に運ばれてしまい、在来種の受粉をさまたげる可能性が出てきます。蜜の匂いや味には好みがあるようで、外来種や園芸品種にはあまり近寄ってきません。季節ごとに何種類かの花が交代で咲くようになっていると、より多くの蝶が観察できます。

くれぐれもアスファルトで舗装したり、草むしりに除草剤を使うことなどしないようにお願いします。

本来なら自然の中で営まれるべき蝶の生活ですが、失われつつある好適な環境を思うと、少しでも庭を快適にして、蝶の手助けをしたいものです。

栗岩さんの写真展のごあんない

歴史民俗資料館企画展

『軽井沢の蝶』

町内在住、蝶類写真家の栗岩竜雄さんが撮影した蝶の写真を見にいってみませんか。絶滅のおそれのある種を含む60点余りの作品が展示中です。庭や道ばたで蝶たちに出会うのがきっと楽しくなるはず。

期間：11月14日（日）まで
ところ：軽井沢町歴史民俗資料館
入館料：大人400円 子供200円
※市村記念館と2館共通券

軽井沢の名歌手たち

星野 裕一

軽井沢以外の野鳥の歌声をあまり知らない私ですが、かつてやはり自然が豊かで有名で、標高、内陸という点からも軽井沢に似た所へ行った事があります。そこで耳にした鳥のさえずりに、私は、名前がすぐに出て来ないのでたずねると、「クロツグミ」との事でした。

「クロツグミ」は、森の名歌手の異名を持つ、軽井沢でもなじみの深い森林の鳥です。以前、フランスが生んだ名作曲家、オリヴィエ・メシアンが軽井沢を訪れた時、この地の「クロツグミ」の美声を絶賛し、その声を聞きながら、五線譜に書き写したことが知られています。いくつかの種類の鳥の歌声は、軽井沢で聞く歌声と微妙に違うということを、訪れた地で知ったのです。

ここ軽井沢は春になると、北から南から集まってきてさえずる野鳥のコーラスで、世界的にも有名です。また、軽井沢の自然環境は、彼ら野鳥にとって、とても住みやすく、毎年毎年、苦勞をして渡って来て子育てをする価値のある所なのでしょう。

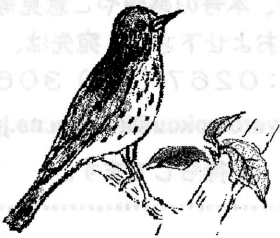
「正調野鳥の歌声軽井沢節」が継承され、後世に伝えてもらうには、なんといっても軽井沢の自然環境を、よりよく後世に残して行かなければなりません。私たち町民一人ひとりの力によって——。



オスは
おなかか
白い。

《クロツグミ》

春、九州から
北の林などに渡ってくる夏鳥。
虫やミミズを食べます。
他の種類の声をおぼえこんど
歌うなど、生まれつきの
天才的音楽家。



メスはわきの下がキツネ色。

われもこうの会の 原っぱのお手入れに 参加しませんか

今後の作業日と集合場所

- 7月14日(水) 前沢の原っぱ[北]
- 8月1日(日) 前沢の原っぱ[新]
- 9月5日(日) 市村の原っぱ
- 9月15日(水) 前沢の原っぱ[北]
- 10月3日(日) 市村の原っぱ
- 10月20日(水) 前沢の原っぱ[新]
- 11月7日(日) 前沢の原っぱ[北]

●午後1時30分集合。

ただし、7月14日と

8月1日は早朝作業、
6時30分からスタート。

- #### ●日除けの帽子、園芸用 手袋、鎌、スコップ等 持参してください。

会員の皆さんへ

2004年度年会費の納入はお済みですか？
未納の方は郵便振替をご利用下さい。また
は十二屋文具店長谷川までお願いします。

年会費：2,000円

18才未満、65才以上の方は500円

またご家族で会員になっている方は
2人めから 500円です。

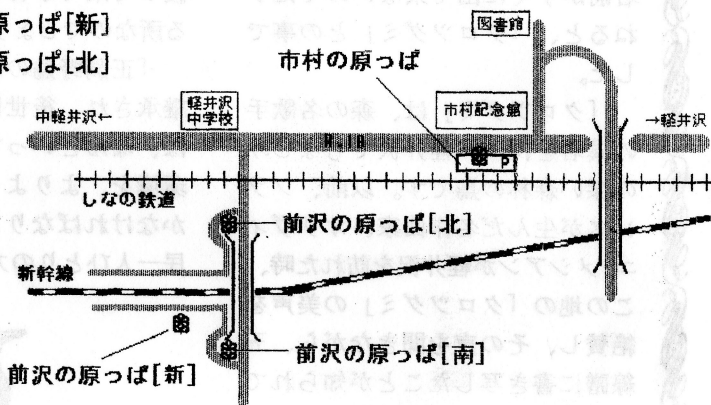
- #### ●口座No. 00500-9-71948

われもこうの会

われもこうの会では新幹線や道路の工事のあと
にできた空き地などに山野草を植えています。
建設残土で荒れた土地に自然を取り戻し、野の
花をいっぱい咲かせるのが私たちの夢です。

会員随時募集中！

詳しくは事務局まで



編集室より

原稿募集のお知らせ

野の花を活かした庭づくりのアイ
デアや質問、本号の感想やご意見等、
編集室までお寄せ下さい。宛先は、
ファックス：0267(46)3064
Eメール：waremoku@k4.dion.ne.jp

お待ちしております。

ホームページもご覧ください

<http://www.h5.dion.ne.jp/~waremoko/>

発行/われもこうの会

事務局 TEL・FAX/ 0267(46)2505